“成長路線を世界に求めて”
公開・未公開株と新事業卓越情報

週刊ベンチャーインテリジェンス

THE SMARTEST TOOL FOR FUTURE PROFIT　2009年7月28日号

©〒１０３－００２３ 東京都中央区日本橋本町２－３－６　協同ビル３Ｆ　編集人・発行人：阿部　享士（禁・無断掲載）

Ｈ株指数４３銘柄
編集部の最新分析レポート⑪

先週号の騰落率ランキングで
ハイパフォーマンスを見せた非鉄金属セクター

収益を左右する価格動向をチェックし
主要４銘柄の見通しを徹底検証！！

先週号では上半期のＨ株指数構成銘柄のパフォーマンスがワースト２位となった通信機器大手の『中国通信服務』（００５５２）をご紹介したが、今回は逆に騰落率上位にランクしている非鉄金属セクターに注目してみた。

取り上げるのはランキング３位『江西銅業』（００３５８）、１０位『アルミニウムコープ』（０２６００）、１２位『洛陽欒川モリブデン』（０３９９３）、１５位『紫金鉱業』（０２８９９）の４銘柄。これらが今年好パフォーマンスを見せたのは、それまでの下落幅が非常に大きかったことによるものが大きいが、今後、株価のさらなる成長余地はあるのだろうか。これら非鉄金属企業の収益を左右する各商品価格の見通しを占うとともに、大手証券の評価と編集部独自の投資判断をご紹介する。ぜひご参考にしていただきたい。

☆『江西銅業』（００３５８）
銅メーカートップの地位を堅持

銅生産で中国トップを誇る鉱産企業。陰極銅の年間生産能力は約９０万ﾄﾝで、同社が持つ銅資源の埋蔵量は１５００万ﾄﾝと中国全体の銅資源の４分の１を握っている。そのほか金、白銀や硫酸なども生産。これらの採掘した鉱石を選鉱し、精製までを行なう。

０８年通期決算では、各種製品の生産増により前年比２４・４％の増収（５３６億９３００万元）と２ケタ増収を保った一方、金融デリバティブ商品で１３億６３００万元と巨額のマイナスを計上したため、同４９・６％の減益（２２億８５００万元）となった。今年に入ってからは国内経済の成長鈍化もあり、第１四半期決算は２８％の減収、８９・３％の減益と、業績はさらに悪化している。

急回復から一転、価格調整へ

予想以上の業績不振により、株価は昨年１０月末に２・５８ＨＫﾄﾞﾙの安値をマークしたが、今年は政府の支援策を受け、すでに５倍の１５ＨＫﾄﾞﾙを超えている。株価急騰の一因となったのが、国務院が発表した「非鉄金属産業調整及び振興計画」である。これは国が非鉄金属の備蓄を引き上げることで、業界の活性化を図ろうというもの。銅については今年、業界全体の年間生産量の１０％にあたる４０万ﾄﾝを購入。これにより、銅価格が大幅に回復した。

しかし、政府はすでに期待通りの効果が得られたとし、このたび再度買い増すことはしないと発表。また、銅管メーカー２１社に対する調査によると、6月の生産ライン稼働率は６３・４％となり５月から１５・２％低下しているとのこと。これを受け、７月第１週の銅価格は２・１％の下落。今後の銅価格も調整が続く

との見方が広がっている。

積極的な業容拡充は長期的に好材料

上記の通り、短期的には厳しい状況が続くだろうが、長期的な見通しは明るい。早ければ今年下半期には世界経済が回復し始めるとの観測が出されており、海外でも需要回復が予測される。国内でも実体経済の回復にともない、商品需要と価格を押し上げるとみられている。今後の需要増を見据え、同社では今年に入って生産力の拡大に力を入れている。

年初には傘下の銅箔メーカーである『江銅一耶茲銅箔』へ２億６８００万元を投入し、第２期拡張工事を開始。完成すると高級銅箔の年産能力は５０００ﾄﾝ上乗せされ、生産規模は年間１万１０００ﾄﾝに倍増する。また、親会社が年産２０万ﾄﾝの亜鉛工場と精製施設を今年から５年で建設し、上場企業である同社へ注入するとの計画を発表。海外事業にも積極的で、アフガニスタンの銅鉱プロジェクトへ今後５年間で４３億９０００万米ﾄﾞﾙを投資することが決まっている。

収益見通しを大幅引き上げ

長期的な見通しが良好となれば、銅価格が調整入りするいまが絶好のチャンスではなかろうか。

『モルガン・スタンレー』では、世界経済の回復観測を受け、長い目で見た銅価格はその他非鉄金属価格の上昇幅を上回るとみている。同時に０９年予想ＥＰＳを０・１９元から０・６５元、１０年も０・２元から０・８元へ引き上げた。

よって目標株価もこれまでの７・４ＨＫﾄﾞﾙから１３・６ＨＫﾄﾞﾙへ大幅修正。ただ、同証券では、年初からの株価急上昇により、短期的な上値余地は限定的と判断。そのためレーティングを「リデュース」から「イコールウェイト」へ変更するにとどめている。

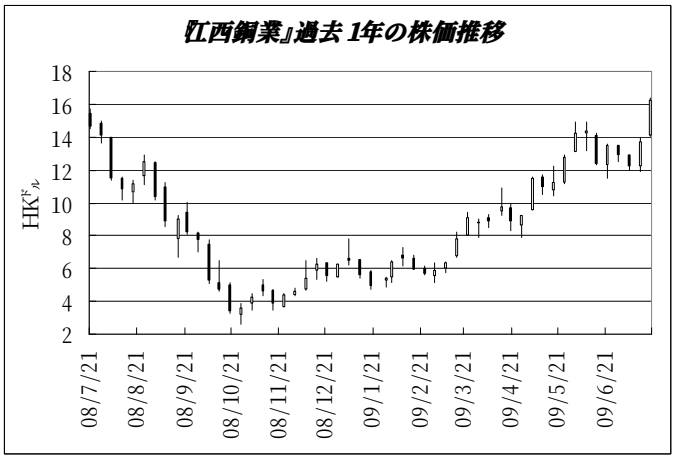
＝編集部の一言＝

「短期的な業界環境は厳しく、同社の中間決算では前年同期比５０％以上の減益が見込まれます。ただし、工業製品全体の６割で銅を使用している、というように、中国経済の成長に銅は欠かせない材料の一つ。今年は減益が予想されますが、長期では高い成長余地が秘められています。先日、株主である『ハルビス・キャピタル』が持ち株比率を５・１８％から４・４８％に引き下げましたが、今後も持ち株売却にともない、株価を圧迫するとみられます。そうなれば投資家にとって参入のチャンス。長期での投資を推奨します」

『江西銅業』の業績予想　単位 :百万元

	2008	2009 F	2010 F	2011 F
純利益	2,285	1,137	1,469	2,591
伸び率（%）	-49.6	-50.2	29.2	76.4
EPS（元）	0.760	0.380	0.490	0.886
配当（元）	0.080	0.110	0.110	0.143

※上記の数字は市場予想値



☆『アルミニウムコープ』（０２６００）

過去最大の業績不振から回復か！？

中国最大手のアルミニウムメーカー。傘下に３１社の子会社を抱え、国内１７省市でアルミナ及びアルミ地金の生産に携る。アルミナの生産では世界２位、地金でも３位にランクしており、中国を代表する非鉄金属企業の一つとされている。

近年の業績は急降下。昨年は豪雪、地震などの災害に見舞われたほか、製品価格の下落、金融危機、原料価格高など、悪材料が重なったことで、前年比９・９％の減収（７６７億２６００万元）、９９・９％の減益（９２３万元）と大幅に悪化。今年はさらに低迷したおり、第１四半期決算は２４・４％の減収、１８億８９００万元の赤字に転落した。

「１Ｑでは赤字決算となりましたが、昨年４Ｑの赤字額２５億７０００万元から大幅に減少。中間決算でも赤字の見通しですが、通期で目標の黒字復帰を達成するかが今後の焦点となります」（地元経済アナリスト）

アルミ価格は調整局面へ

株価は昨年１０月末に安値の１・９ＨＫﾄﾞﾙを付けてから、これまで実に５倍近くの急騰を見せている。

これは最近の相場の好調に加えてアルミ価格が低位か

ら回復しているため。では、アルミ業界の環境も改善しているかというと、依然として厳しい状況にある。実際、同社の親会社『Ｃｈｉｎａｌｃｏ』の熊維平総経理は、「現在、世界中でアルミ製品の在庫水準が急上昇。実需はいまだ好転していない」と業界の現状について語っている。

このところ回復基調にあった価格についても、アルミ価格とリンクする原油価格に下落圧力が高まっており、７月２週のアルミ価格は前週比で０・３％の下落。一方、上海先物取引所におけるアルミの現物在庫は１７・３万ﾄﾝと前週比で２・１％増加していることから、今後の需要も低迷する見通し。アルミ価格も調整局面が続くと予想されることから、同社収益にも悪影響を及ぼしそうだ。

生産力拡大が吉と出るか！

業界を取り巻く環境は思わしくないものの、同社では積極的な生産力の拡充を進めている。このたび１０億株以内のＡ株発行を当局に申請し、１００億元を調達する計画。その資金を使って、重慶でのアルミナ生産プロジェクト（年産８０万ﾄﾝ）、山西省でのアルミナ生産プロジェクト（年産８０万ﾄﾝ）、河南省での鉱石加工工場建設（年間処理量７０万ﾄﾝ）などに充てる予定で、これらが完成すれば同社のアルミナ生産能力は１９％アップするという。

これに対し、『中銀国際』では悲観的な見方を示している。世界の需要停滞や生産過剰、高い在庫水準などを指摘し、新たな生産能力の拡大が業績に直接反映されるかは不透明と指摘。現時点で評価を加えることはできないと判断している。また、増資によって２０１０年の予想ＥＰＳは6・9％希薄化するとの分析も出しており、現在の１０年予想ＰＥＲ３３倍はアジア太平洋地区の鉱産企業の平均を３８％上回る割高水準と評価し、レーティング「売り」に設定している。

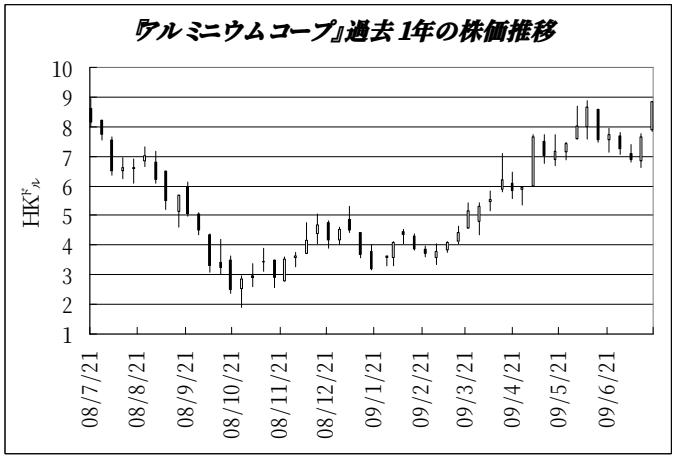
＝編集部の一言＝

「これだけの悪条件がそろってしまうと、現在の株価はさすがに買われすぎ、と言わざるを得ません。加えて親会社による鉱産大手『リオ・ティント』の株主入りの交渉が暗礁に乗り上げたことで、期待されていた同社への恩恵も見込み薄となってしまいました。当面は好材料に欠けるほか、投資妙味も薄いことから、実需の回復と株価に割安感が出るまでは、出資を控えるのが無難です」

『アルミニウムコープ』の業績予想　単位 :百万元

	2008	2009 F	2010 F	2011 F
純利益	9	452	3,837	8,883
伸び率（%）	-99.9	4792.7	749.7	131.5
EPS（元）	0.001	0.034	0.286	0.660
配当（元）	0.052	0.025	0.084	0.090

※上記の数字は市場予想値



☆『紫金鉱業』（０２８９９）
安定成長を遂げる金採掘の最大手

中国トップの金鉱山会社。主力の紫金山は国内最大規模の露天掘り金鉱で、その生産量は５６万オンスと０８年末の生産量全体９２万オンスの約６割を占めている。そのほか、貴州、山西、河北などにも金鉱を保有し、同社の「ＺｉＪｉｎ」ブランドの金は上海黄金取引所で売買されている。また、最近では銅や亜鉛、鉄鉱石などの採掘も手掛けている。

０８年はコスト高が響いたものの、通期決算では前年比９・８％の増収（１６３億２２００万元）、２０・２％の増益（３０億６６００万元）と順調に推移した。今年３月末の第１四半期決算では３８・４％の増収、２０．６％の増益と成長率に回復がみられている。

年内に新高値も！

では、同社の業績にダイレクトな影響を与える金価格の見通しはどうなのだろうか。

専門家によると、やはり安全資産としての金への投資が続くとみている。現在は１オンス９５０米ﾄﾞﾙ前後で推移しているが、不安定にある米ﾄﾞﾙ為替が金価格を押し上げ、今後、０８年３月に付けた１０３０米ﾄﾞﾙを上抜け、新高値を付けると予想。

また、米ﾄﾞﾙの将来的な価値低下が予測されていることもあり、このままいけば年内に１２００米ﾄﾞﾙ、もしくは

それ以上に上昇する可能性もある、と観測している。

良好なファンダメンタルズを評価

こうした明るい見通しにより、同社では今年通期の金生産量を１３％引き上げる計画。今後３年間は１０％前後の安定した収益の伸びが予想されている。

『クレディリヨネ』では今年年初に０９年、１０年の金価格の見通しを１０００米ﾄﾞﾙ、９５０米ﾄﾞﾙへ２５－２７％上乗せしたが、米国経済の懸念や低金利の環境から、さらなる上方修正も示唆。同社については生産力の拡大やコスト削減策なども好感し、０９年予想純利益を３４億８００万元と約５％引き上げた。そのため、目標株価をこれまでの５・８ＨＫﾄﾞﾙから６・６ＨＫﾄﾞﾙへ修正。現在の株価はすでにこれを越えているが、良好なファンダメンタルズからさらなる引き上げを予定しており、レーティングは「買い」を据え置いている。

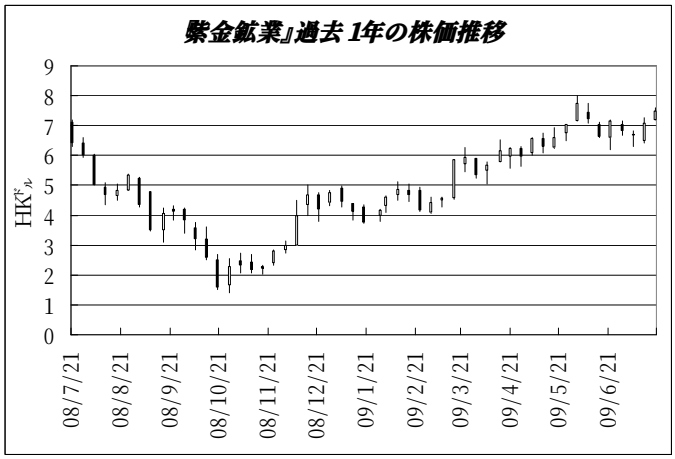
＝編集部の一言＝

「一時は２ＨＫﾄﾞﾙ以下に落ちていた株価もすでに８ＨＫﾄﾞﾙに迫っており、同社Ａ株の０９年予想ＰＥＲは７０倍と海外の同業者を上回る割高水準にあります。しかし、同社にはこれを補う安定した成長性が最大の魅力で、長期スパンでさらなる高値も望めるでしょう。最近はＡ株の大株主などがロックアップ期間の満了により続々と持ち株を放出しており、その影響でＨ株にも上値圧力がみられますが、下がったところが購入の大チャンス。ぜひともポートフォリオに加えていただきたいＨ株屈指の優良銘柄とみています」

紫金鉱業』の業績予想　単位 :百万元

	2008	2009 F	2010 F	2011 F
純利益	3,066	3,388	3,814	4,147
伸び率（%）	20.2	10.5	12.6	8.7
EPS（元）	0.220	0.230	0.260	0.285
配当（元）	0.100	0.124	0.120	0.135

※上記の数字は市場予想値



☆『洛陽欒川モリブデン』（０３９９３）

業績低迷も今年からの復活に期待

傘下の１６社を通じて合金やオイル添加剤などに使用されるモリブデンの採掘から生産、加工、貿易まで従事。河南省洛陽に拠点を構え、世界の鉱産企業の時価総額ランキングで３０位に入る大手鉱産企業である。香港上場は０７年４月。

モリブデン製品の販売量こそ前年を上回ったが、コスト高と同時に製品価格の下落を受け、０８年の通期決算では前年比５・７％の減収（５５億６３００万元）、２６・８％の減益（１６億４１００万元）と減収減益を計上した。収入の４分の１を占める海外売上が２４％減少したことも収益を圧迫した。

下半期も厳しいモリブデン価格

同社はこのたび業績警告を発表。中国、海外のモリブデン価格の下落を受け、今年上半期の純利益は前年同期から大幅に減少すると予測している。一部関係者では、中間純利益はおよそ８０％の大幅減益、との見方もあり、今後の株価を圧迫すると見込んでいる。

今後のモリブデン価格について、市場では悲観的な見方が大勢を占めている。モリブデンの主な供給先となる鋼材業界では供給過剰で減産を計画しているため、今年の需要は昨年から横ばい程度にとどまるとのこと。価格も低飛行が続くと見込んでいる。

こうした状況により、短期的な業績回復は厳しいと思われる。今年の通期決算では前年以上に悪化する見通しで、５０％以上の大幅減益を予想。今後、０８年通期の収益水準に戻すには少なくとも３年以上の時間がかかるとみられている。

悪材料は出尽くし！？

しかし、『シティグループ』では今年上半期が同社の収益の谷間と判断。鋼材需要も徐々に回復に向かっているとし、これまで停滞していたモリブデン価格が今後急反発する可能性があると期待を示している。

また、今回の業績警告で悪材料の出尽くし感を指摘。投資リスクは依然あるものの、収益力と投資妙味が高いと評価し、レーティング「買い」を推奨。株価はすでに目標株価の６・８０ＨＫﾄﾞﾙに迫っているが、今後のサプライズ要因とされる米、カナダ、オーストラリアにおける同業他社の買収に成功すれば、ターゲットの上方修正も十分あるとしている。

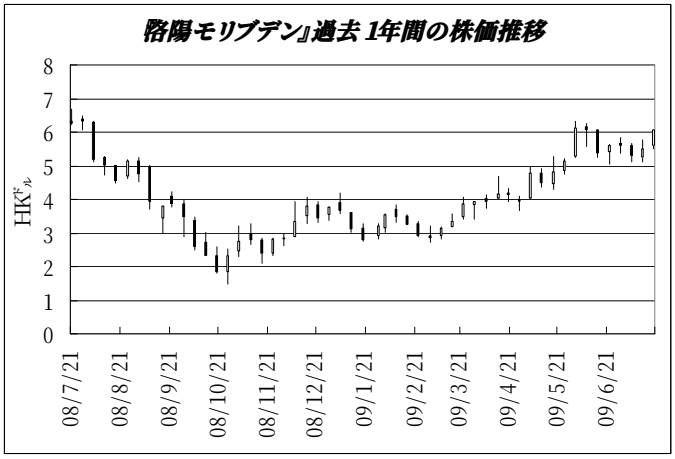
＝編集部の一言＝

「一時は１ＨＫ$ドル台まで暴落した株価は現在、７ＨＫ$ドルに迫っていますが、０７年１１月にマークした２０ＨＫ$ドルと比べれば、わずか３分の１ほどの回復に過ぎません。『シティ』ではこれを出遅れの優良株と評価しています。しかし、市場の予想ＥＰＳから算出した０９年予想ＰＥＲ３４倍は割安と評価できず、投資リスクは高いと思われます。ただ収益的には今年が谷間となることが確実視されていますので、リスク覚悟で投資に望むなら、大化けする可能性もあります。小額資金の投入がベターでしょう」

『路陽モリブデン』の業績予想　単位 :百万元

	2008	2009 F	2010 F	2011 F
純利益	1,641	579	864	962
伸び率（%）	-26.8	-64.7	49.2	11.4
EPS（元）	0.340	0.120	0.175	0.195
配当（元）	0.158	0.044	0.060	0.070

※上記の数字は市場予想値



香港株／新進気鋭のＣＧアニメ製作会社

業績だけが評価の対象じゃない！
勝負球は「鉄腕アトム」に「ガッチャマン」！？
映画公開に先駆けて仕込むべき
『イマージ・インターナショナル』（００５８５）

本紙３月３１日号で１４ＨＫ$ルちょっとのときにお奨めした『ＢＹＤ』（０１２１１）が７月下旬に入って３倍の４２ＨＫ$ルを突破。ご紹介時の記事では、「市場で評価されていないこの時期にこそ、仕込んでおくと面白い」とその後の展開を占ったが、これがズバリ的中。仮に３０万円投資していた方なら、すでに９０万円にはなっているのだから、このご時世に相当のパフォーマンスではないだろうか。

こうなって来ると、いつ売ればいいのか気になるところ。結論から言うと今が「売りどき」の可能性が高そう。香港の証券各社が出しているアナリストレポートをみても、『ＢＹＤ』の手掛ける電気自動車事業そのものの発展性は評価しつつも、いまの株価がＰＥＲ（株価収益率）５０倍ほどに跳ね上がっているとして、人気先行との見方が大半。ここら辺で手を打って、利益を確定させておく方がいいのかも知れない。

当編集部としては、株価が２倍以上に上がった場合には、半分売って元手を確保しつつ、もう少し上値を追うという戦法をご紹介している。ただし、上げ足の速い銘柄は下げるのも早いことが多いので、株価ウォッチは怠らないようにしていただきたい。

『ＢＹＤ』がこれだけ上昇した理由

『ＢＹＤ』がここまで値上がりした理由を考えてみると、自動車減税などの政策的な後押しとエコブームに乗せられて、投資家の関心が電気自動車に向いたことが大きいように思われる。つまり香港株式市場では、多くの投資家が実際の業績うんぬんではなく、ある種の期待感によって株の売り買いを判断している、ということになろうか。

そこで今週号では、業績とは異なる要因で動く銘柄に注目。『国泰君安（香港）証券』がオススメする、もっともユニークな株をピックアップしてみた。それが今回ご紹介する『イマージ・インターナショナル』（００５８５、以下『ＩＭＩ』）である。

知られざる ＣＧアニメ映画の世界・・・

『ＩＭＩ』は香港とロサンゼルスに拠点をもつＣＧ

（コンピューターグラフィック）製作会社。社名を聞いてピンと来る方はほとんどいないと思われるが、実は、ハリウッドのフルＣＧアニメーション映画「ＴＭＮＴ（忍者タートルズ）」（０７年３月、米で公開）や「ＡＴＯＭ（鉄腕アトム）」（今秋、日米同時公開予定）、「Ｇａｃｃｈａｍａｎ（ガッチャマン）」（来年公開予定）のＣＧ製作を手掛ける“その道のプロ集団”。実写では表現できないＣＧならではの迫力あるアクションシーンに定評がある、とのこと。香港とロスを合わせて５００名の社員を抱える大企業である。

「アニメーション映画は、投資回収率の面で優れています。まず、チケット売上が通常の映画を上回るケースが多いこと、大人から子供まで客層が広いこと、そして原作モノの場合、キャラクターデザインなどのコストが低いこと、一度作ったＣＧ素材は続編に流用できるのでさらにコストダウンできること、などが挙げられます」（事情通）

今作「ＡＴＯＭ」（邦題）は、すでに世界的なビッグネームとなっている手塚治虫の「鉄腕アトム」のフルＣＧアニメ。原作そのものが日本はもとよりアメリカでも「アストロボーイ」として広く浸透していることから、大きな興業収入が見込めるとして、０６年に『ＩＭＩ』が総額５０００万米ﾄﾞﾙの予算をかけて製作すると発表したのである。

ところが世界的な金融危機の発生などで手を挙げていたスポンサーが次々に資金難に陥り、計画は一時頓挫。その後、予算枠を４０００万米ﾄﾞﾙに引き下げ、今年に入り新たな出資者を獲得したことで、ようやく息を吹き返したという経緯である。

「ＡＳＴＲＯＢＯＹ公式」ホームページ（http://www.astroboy-themovie.com/）にアクセスすると、映画のハイライトシーンを見ることができるが、これがなかなかの迫力。ハリウッド映画なので、アトムの表情やしぐさがアメリカ人然としているのはご愛嬌としても、スピード感や画像のクリア感は素晴らしい。ご興味をお持ちの方は、まずご自身の目で実際の映像を確認してみてはいかがたろうか。

フルＣＧの「ＡＴＯＭ」同社ホームページより

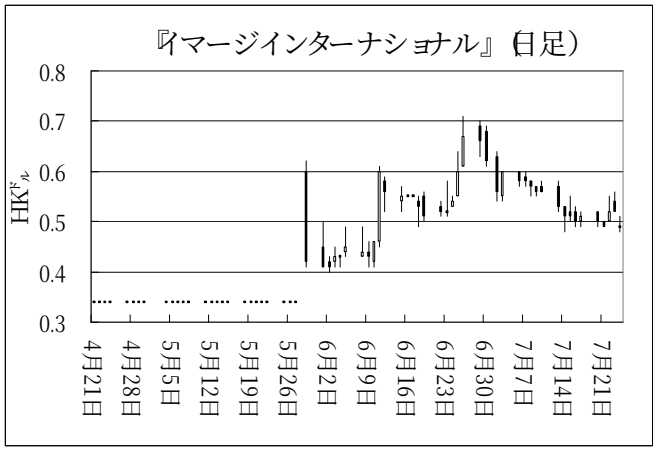
映画のヒット＝株価上昇！？

さて、今回のテーマは業績と異なる要因で株価が動く銘柄である。この『ＩＭＩ』がその筆頭というわけだが、では何に基づいて株価が動くのだろうか。『国泰君安（香港）証券』のアナリストが指摘する。

「『ＩＭＩ』のようなＣＧ製作会社は、手掛けた映画がヒットすると、そのことで企業評価が高まり、株価も上昇するという傾向がみられます。映画のオープニングにデカデカと会社のクレジットロゴが流れますので、まずそこで知名度が上がります。さらにＣＧアニメは、評論・批評などでＣＧの技術面に話がゆくことが往々にしてあり、クオリティ（品質）が高ければ、そこでも会社の評価がアップするというわけです。

ウチでは銘柄評価の際、企業がこれから先に生み出すであろうフリー・キャッシュフローの総合計を予想し、それをもとに現在の株式価値を算定する評価法（ＤＣＦ：ディスカウント・キャッシュ・フロー）を使うことがあります。同社に当てはめると、１株当たりの企業価値は０・６２７ＨＫ^{ドル}。「ＡＴＯＭ」がヒットした場合には０・９０５ＨＫ^{ドル}にまで跳ね上がりますので、いずれにしても０・５ＨＫ^{ドル}を切る現在の株価はまったくの割安水準といえます」

つまり、うまく映画が話題になれば、２ヵ月後には２倍に化ける可能性を秘めた銘柄なのである。もちろんその逆で、大コケで全然株価が上がらないこともあり得る。ヒットするかどうか公開されてみるまで判らない、というのが本当のところではあるが、“夢”がつまったオモシロそうな銘柄なのも事実。ここは損をしても痛くない程度の小額投資で買ってみるのが面白いのではないだろうか。



香港株 週間配当スケジュール [7月29日（水）～8月4日（火）]

コード	企業名	権利付き最終売買	支払日	配当詳細（配当額は1株当たり）
00896	興勝創建	7/29	8/21	0.01HKﾄﾞﾙ（期末）
00336	華宝国際	7/30	10/16	0.058HKﾄﾞﾙ（期末）+0.03HKﾄﾞﾙ（特別）
00237	安全貨倉	7/31	8/14	0.04HKﾄﾞﾙ（期末）
00927	富士高実業	〃	8/24	0.05HKﾄﾞﾙ（期末）+0.04HKﾄﾞﾙ（特別）
00413	南華中国	8/4	8/21	1株当たり『南華置業』(08155)の4株（特別）

※証券会社によって取扱銘柄や最終売買日、支払日が違うところもありますので、
詳しくは取引している証券会社にお問い合せください

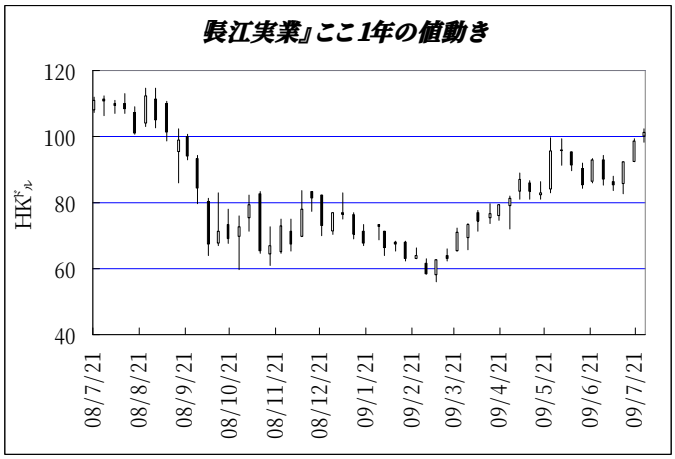
中国株／最新レーティング一覧表

香港系デベロッパーの筆頭
『長江実業』『新鴻基地産』を
新たにウオッチ銘柄に追加！！
経済復興を受け業界景気はすでに好転
優良不動産銘柄の押し目好機を見逃すな！！

☆『長江実業』（００００１）：
現状の株価はＮＡＶより３０％割安

香港４大不動産のトップ。世界的富豪の李嘉誠一族が経営する大手不動産デベロッパーで、『長江グループ』の傘下企業。

同社は香港及び中国国内でそれぞれ１６００万平方フィート、１億平方フィートの開発用地を保有するほか、ホテルなども経営している。低金利や経済好転にともなう需要増などにより、香港、上海、広州、深センなどの物件販売が好調。０９年、２０１０年のＥＰＳ伸び率はともに１５・２％が予想されるが、ＮＡＶ（１株当たり純資産価値）から３０％ディスカウントされた現状の株価は割安感が強い。よって評価を「買い」とし、ターゲットプライスを１３７・４ＨＫﾄﾞﾙに設定する。



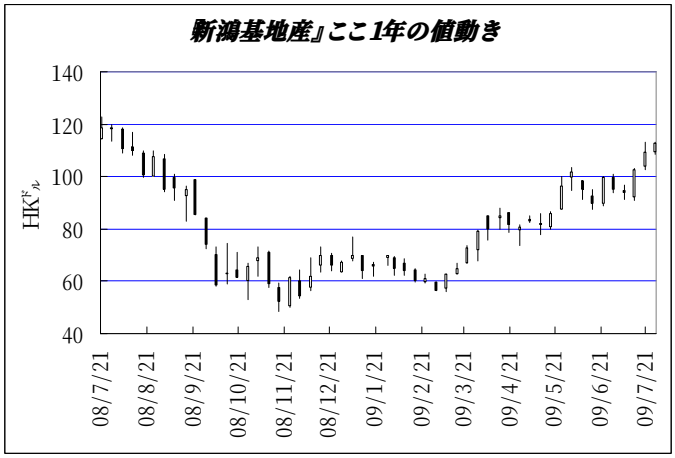
☆『新鴻基地産』（００００１６）：
０９年の売上高はすでに年間目標の９０％を達成

７２年設立の大手不動産デベロッパー。高級住宅、オフィスビルなどを手がける。北京や上海にも進出している。これまでの売上高は約１６０億ＨＫﾄﾞﾙに達し、すでに年間目標の９０％を達成。同年の純負債比率が１４・６％と予想されるなど、健全な財務内容も加点要素の一つ。「国金中心」「環球貿易広場」など、傘下物件の賃貸業務も今後、

黒字化する見通し。

同社は中国国内に５３００万平方フィートの開発用地を有するほか、今後、５年間で開発される物件面積は約１８００平方フィートに達する見通し。経済好転にともない中国の不動産業界の景気はすでに回復期に入っており、今後は上海、広州、深センなどを中心に物件販売量の増加が期待される。

２０１０年、２０１１年のＥＰＳ伸び率はそれぞれ４９・１％、２７・６％と予想される。現在の株価は目標価格の１２２・８ＨＫ^{ドル}に迫っているが、同証券は強気の「買い」を推奨。近いうちに目標株価の見直しもありそうだ。



中国株レーティング表(09年7月28日)

コード	銘柄	6～18ヵ月		単位	予想EPS				予想DPS			
		ﾚｰﾃｨﾝｸﾞ	目標株価		08年	09年Ｆ	10年Ｆ	11年Ｆ	08年	09年Ｆ	10年Ｆ	11年Ｆ
00001	長江実業	買い	137.40	HK^{ドル}	6.700	7.785	9.049	10.119	2.450	2.450	2.450	2.450
00016	新鴻基地産	買い	122.80	HK^{ドル}	10.866	4.259	6.348	8.098	2.450	2.600	3.000	3.010